

地域文化創造機構ニューズレター

Institute for Regional Culture Development Newsletter

Vol. 14 2015. 10. 23

活動報告

トピックス 1

金剛能楽堂を埋めた観客が拍手喝采 茨木童子、京都に還る！京都凱旋狂言会

地域文化創造機構教授 副機構長
豊島 眞介

追手門学院大学創立50周年記念事業の「茨木童子、京都に還る！京都凱旋狂言会」が10月12日(月・祝)夜、京都市上京区の金剛能楽堂で開催されました。大学の教育後援会、卒業生保護者の会、校友会、追手門学院校友会山桜会の「オール追手門」によるバックアップに加えて、茨木市、茨木市文化振興財団、茨木ロータリークラブなど地元勢の援護射撃もあって前売り券、当日券とも順調な売れ行き。ほぼ満員の約380人の観客が古典の「清水」「鬼瓦」、新作狂言の「茨木童子2015」の鬼づくし狂言会を十二分に味わいました。



茨木童子を囲む茨木の子どもたち

新作狂言の茨木童子は茨木市のマスコットキャラクターになっている鬼で、京都で酒呑童子の一の子分とよって大暴れしたという伝説が残っています。追手門学院大学と狂言大蔵流茂山千五郎家、(公財)茨木市文化振興財団がほぼ1年がかりで新作狂言に練り上げ、一昨年、昨年と茨木市の真宗茨木別院で公演。今回は茨木童子が京都に還る凱旋狂言会と銘打っての公演となりました。



茨木童子(手前)の忠告を聞かない茂山童司

公演に先立って、坂井東洋男・追手門学院大学学長が挨拶の後、河合博司・地域文化創造機構機構長が京都で開催に至った経過を説明。茂山千三郎師が鬼の登場する狂言について解説し、「鬼瓦のど

で「鬼瓦」は大名を茂山正邦、太郎冠者を鈴木実が演じました。お堂を見学する主従が屋根の鬼瓦を見たとき、大名が故郷で待つ妻の顔を思い出したと泣き出して、客席は大笑い。

メインの「茨木童子2015」は茨木童子を茂山千三郎、茂山童司役を茂山童司、父を丸石やすし、母を松本薫の配役。「茨木の子どもたち」は茨木の小学生4人が千三郎師の指導で事前に2回お稽古して本番に臨みました。お囃子は民族芸能アンサンブル若駒が担当しました。改心して良い鬼になった茨木童子が子どもたちと楽しく歌い舞うシーンから幕開け。茂山童司という親の言うことを聞かない少年がいて、困った親が茨木童子に救いを求めるという筋書き。茨木童子の忠告をものもしない茂山童司はさてどうなるのか。緊張の中にしばしば笑いが広がる舞台になり、最後に観客席



茨木中高で開かれた狂言ワークショップ
舞台上は茂山千三郎師

は拍手の渦に包まれました。

来場者のアンケートには「新作の茨木童子は期待以上、またみたい」「子どもたちはかわいくてうまい」など「大変満足した」という回答が相次ぎました。

今回の公演を学院全体の事業として成

功させるため、9月10日、30日には大手前、茨木中高で中学生全員を対象にした狂言ワークショップを開催。当日は大学教育後援会が京都の一日ツアーの最後に公演を組み入れたほか、京都歴史散歩ツアー、山桜会、大手前中高を中心にしたミニ講演会・食事会、茨木ロータリークラブの懇親会開催などすべての団体が公演を組み込んだ日程で開催いただいたうえ、校友会は京都支部を中心に参加費補助。このような多大なバックアップがほぼ満員という成果につながりました。各位のご協力に深謝いたします。

こに鬼が登場するかお楽しみに」と話しました。

「清水」は太郎冠者を茂山あきら、主人を茂山宗彦が演じ、ひょうきんな仕草に客席が沸きました。次い

「水中健康運動の実践 ～マスタースィンクロに挑戦～実施報告」

基盤教育機構 特任教授
異 樹理



参加者の皆さまと集合写真

第3回スポーツ研究センター主催のセミナー「水中健康運動の実践～マスタースィンクロに挑戦～」を10月13日(火)、茨木市西河原市民プールで開催いたしました。水慣れのウォーキングから水中運動(キックや水中ジャンプ)そして最後には劇団四季のライオンキングの音楽に合

わせ、ィンクロの振り付けを行いました。参加者は20歳代から70歳代までの幅広い年齢層で、さらに泳力にも差がありましたが、水深も1.2Mと浅く、可能な範囲で動作を仕上げた演技は、参加者が一丸となり達成感に満ち溢れているような笑顔が見受けられました。

また健常者だけではなく、全国で障害者ィンクロの実施者が増加している中、今回も特別支援学校の教員が参加して下さり、「日頃の水泳指導に活かしたい」と熱心に受講されていたのが印象的です。教室後のアンケート結果では指導者・プログラムの内容に「とても満足、満足度」合わせて100%であり、今後も生涯スポーツとしてのィンクロ普及・拡大も視野に入れながら前向きに教室の開催を検討したいと考えています。最後になりましたが、今回のセミナー開催にあたり、ご尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

第2回「子どもまちづくり塾」開催

地域文化創造機構 客員研究員
田中 正之

10月17日(土)、「ミツバチを通して『まちづくり』を考える」をテーマにした、茨木市主催の第2回「子どもまちづくり塾」が追手門学院大学で開催されました。前回の参加者に加え、新たな参加者を迎えて、「追大ミツバチプロジェクト」の学生と担当の今堀准教授の進行で、楽しい塾が展開されました。全員による自己紹介タイムでは、早くもミツバチ発見の報告が相次ぎ盛り上がりました。復習を兼ねたミツバチ講座に続き、学生によるオリジナル紙芝居「みんな、なかよし」では、参加した子どもばかりか大人も楽しんで見っていました。また、ミツバチを見かけた場所を地図に記す「ミツバチマップ作成」では、2班に分かれ2つの地図を作りました。重なる場所が多く、今後のフィールドワークに役立つ情報が多々ありました。特に、佐和良義神社でニホンミツバチの巣が発見されたというビッグニュースに場が盛り上がりました。その後、休憩をはさんで、巣箱のあるガーデン

に移動しました。参加者が市に用意してもらった蚊帳の中に入り(途中スズメバチが飛来するというハプニングがありました)、間近でミツバチの巣を観察(内検)しました。巣板の一つから直接スプーンで蜜をすくって味見をしたところ、全員から「美味しい」とのコメントをいただきました。ミツバチを愛する市民を間近に感じる一日でした。



天然ハチミツの試食

地域文化創造機構 ニューズレター

発行/追手門学院大学 地域文化創造機構

お問い合わせ

追手門学院大学 地域文化創造機構 「連携考房 童子」
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202 (阪急茨木市駅前「Socio-2」2階)
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp